



平第二校の擴張に 愈々最後の斷行か

理事者から情理を盡す、説得後

不承諾なら止むを得ず

半町第三小学校運動場擴張の土地買収は既報の如く關係地主六名の中諸橋久太郎、齊藤又三郎(双葉兩氏の各一反歩)は一坪三園を以て快諾されたが残る四名の

酒井常吉(五丁目)一反五畝

歩 諸橋國松(新川町)一反

山下久芳、同二反歩 長谷川浩太郎(才穂小路)二

反歩 小野伊佐治 馬自武之助

根本 品藏 荒川浅次郎

猪狩 觀徳 吉村安次郎

佐藤幸次郎 緑川喜三郎

鈴木 光吉

十名の委員により去る五日まで折衝を重ねたが長谷川氏は五回づゝと他に賣約を稱へるに過ぎず、他に賣約を稱へると同時に不承諾の地主を町に招き、公告に係り第三小学校起業の爲め收用すべき土地の細目(正内町四、四五、四

月五日内務大臣の事業認定

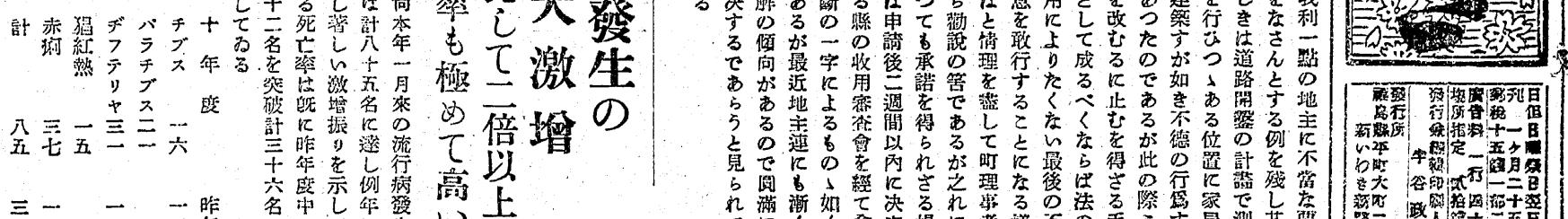
の爲め收用すべき土地の細

目(正内町四、四五、四

月五日内務大臣の事業認定

の爲め收用すべき土地の細

目(正内町四、四五、四



講座

サウンドは音または響き聲のことで映画で云ふオール・サウンドは音響のみで會話のないもの即ち音樂とか音響だけ採つて會話を錄音してない映畫サウンド

トーキーのことだ

あるらしく

**故済先生の
遺影を偲ぶ**

(瀧川家の史料採訪)
 (九) 菊多の勤王家聞外
 紹川畔に逝く

惟ふに濟は、安井息軒の學風を承け、又自から水戸學を奉じて、熱たる憂國思想をして居たのは、度々云ふまでもないが、要するに彼の人格を一言にして評すると、完全なる志士であつたから、彼は常に儒者風ならず、文人風を好みなかつた。それは彼の遺稿と言行に於いて、何れも明かに説かれよう。此の點は磐城第一の學者 錫田三善に酷似する所がある、右の三善は殆んど詩歌を弄さず、其の專攻する奥羽の地理、歴史の以外は、京師の山陵を巡詣して之を作圖上表し又義人烈士の旌顯に意を傾注し、並至郷土の民政に銳意努力したる綜合的勤王家であつた。然るに濟は若干詩を作つたが、磐城地方否一般の儒者風流者たちの如く、其れを形成するには約り合はない。但だ櫻園、神林、大須賀、先輩室櫻園の詩と比べると、幼稚、拙滌の跡あるかも知れないが、有名で、殊に大須賀は東北有數の詩人として洛陽に評判されたくるのであるから、單に漢籍と詩文だけで、濟を對照するには約り合はない。但だ其の國家的業績と人格の優劣にあらう。予は彼等の一人／＼の社會的比較を論じたくない、要は濟の人としての概観で、彼は徹頭徹尾志士、勤王家であつたことだけは世

に高唱して些しま憚らぬ。

郷土史抄

（瀧川家の史料採訪）

◇一般印刷物も御引受致します

新しいわき新聞社 印刷部

(九) 菊多の勤王家聞外

紹川畔に逝く

（瀧川家の史料採訪）

（九）菊多の勤王家聞外

紹川畔に逝く